

末広橋から下流へ少し歩くと枯れかかった一本の桜に出会います。その太さからおよそ100年前に一目千本桜の生みの親、開治郎さんお手植えと推定されますが、その姿は枝がほとんどなく、樹皮にはキノコ、ぼっかりと空いた空洞も目につかり、衰退の原因が木材腐朽菌(キノコ菌)であることは明らかです。

写真で二股の幹の中心部から太さ5cmぐらいの枝が2本(A、B)出ているのが見えます。実はこれ、幹とは独立した子株で自然に成立した「萌芽更新(ぼうがこうしん)」(第17回後継樹育成へその1に記述)と言えます。さらに空洞内に多くの不定根が見られます(写真)。これはその子株から発生し樹皮の隙間や内部壁面を伝って鋸屑状に変化した腐朽残渣を栄養源に根を伸ばし続けた結果、地面近くまで到達したと考えられます。いわゆる自分の栄養を子株(後継樹)に食べさせたのです。しかしこの根は乾燥しやすいが降雨の少ない年には枯死してしまいがちです。

そこで今回はこの不定根を乾燥させずに地面まで確実に誘導するため穴を開いた幹を植木鉢に見立て①空洞内に

第20回 後継樹育成へその2 自分を食べさせる桜の親心



町内在住の樹木医

尾形政幸先生の花は桜木

開発した専用土を充てんし、②開口部は水分蒸発を抑えるためビニール被覆しました。専用土は、地元産の土にバーク堆肥と鉄分(前回報告した「タンニン鉄」を応用)を混ぜて作成、栽培試験で効果を確かめています。

ソメイヨシノは一般に他の桜より弱いとされますが、皆さんのおかげで町内には365本もの樹齢百年の桜が健在です(大河原町さくらの会調査)。

道を歩いていくとほかの桜でも空洞内にこのような根を見ることができま



施工後

2年目以降根域管理

材料 4人分

- ・にんじん.....200g
- ・糸こんにゃく.....100g
- ・辛子明太子.....90g
- ・サラダ油.....大さじ1

作り方

- ① にんじんは4cmに切り、千切りにする。
- ② 糸こんにゃくは熱湯で下ゆでし、水気を切って3cmに切る。
- ③ フライパンに油を熱し、にんじんと糸こんにゃくを炒める。
- ④ にんじんに火がとおったら辛子明太子を加えて、バラバラにほぐし、白っぽくなるまで炒める。



写真は1人分
【ひとり分栄養価】
エネルギー:77kcal 塩分:1.3g



にんじんの明太子炒め

令和4年度大河原町食育スローガン
「家族で野菜のおかずをひと皿増やし」

調理担当ヘルスメイトより

辛子明太子の塩味だけでもおいしくいただけます。にんじんはβ-カロテンを多く含み、免疫力を高めたり皮膚や粘膜を丈夫にする効果があり、健康を保つために重要な働きをするので、積極的に摂取しましょう。

島田 京子さん(西原区)

Mayor's column
さくら並木
-町長コラム-

自転車を活用したまちづくりの推進
~河川敷などの活用による広域連携と本町のブランド化への取り組み~

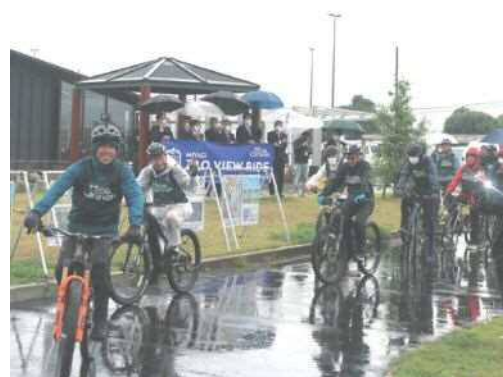
大河原町長 齋 清志

平成28年の国会において『自転車活用推進法』が成立し、翌年の5月より施行となりました。その後設立された『自転車を活用したまちづくりを推進する全国市区町村長の会』に加入しながら、『みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議(以下、推進会議)』の立ち上げを本町が事務局となつて進めてきたところです。また、MTBプロライダーの井手川直樹氏とのご縁をいただいたことをきっかけに、『MTB S-PARK』の完成へとつなげたものです。

さて、去る10月7日に推進会議を構成する仙南2市7町の首長等や、県からは大河原地方振興事務所長にもご出席いただき、『サイクリングキヤラバン(一般社団法人自転車協会主催)』が開催されました。このキヤラバンは、自転車協会と地方自治体とが一体となつてサイクリングの楽しさや文化を広めることを目的に、今回初めて企画されたイベントでしたが、あいにくの雨で、予定されていた『道の駅かくたし船岡城址公園』S-PARKまでの20kmのコースが短縮となったことが心残りです。翌日は好天に恵まれて『MTB S-PARK』を会場に、東北地区で初めての『SBAA(スポーツ用自転車の協会認定ディーラー)オフ

ロードバイクサミット2022』が開催されました。最新モデルの試乗やプロライダーによるライディングスクールなど、東北各地からの来場者に大いに楽しんでいただけたようです。

現在、市町村は『地方創生』の名のもとに特色を生かした様々な事業に取り組んでいますが、広域連携の成果という点では厳しい状況にあると感じています。そのような中、全国的にも注目されている取り組みに、『自転車を活用したまちづくり』があるものと受け止めています。昨年、県議会には『サイクルツーリズム推進議員連盟』が発足したとの話題もありましたが、県には全県的なつながりやまちづくりの後押しとなる施策の対応を求めていきたいと考え



▲10月7日サイクリングキャラバンの様子



▲10月8日 SBAAオフロードバイクサミット2022 前列左から自転車協合理事長、安田大サーカス安田団長、町長と自転車協会のみなさん

(10月17日記)

残念ながら、コロナ禍の影響や社会・経済環境が激しく変化する時代にあつて、人と人・人と地域・地域と地域のつながりが薄れることが切実な地域課題になっていると認識しています。今回の『サイクリングキヤラバン』の開催が、今後の人の絆や地域のつながりとともに、新たなまちづくりの機運を高める機会になることを心より期待するものです。

来年度より本町では、スポーツを通じたまちづくりの推進を町長部局に移管する準備を進めています。日常的な身体活動もスポーツとして捉えて、今後とも河川敷などのロケーションを活用した健康づくりを積極的に提案してまいります。そして、『元気で長生きのまち』が本町のブランドとして定着することを目指す所存です。